

創

—第 77 回—

第7波、その後の方針は

新型コロナの第7波がなかなか収まりません。この夏の感染爆発を専門家の先生方は予測していましたが、残念ながら見事に当たりました。予防の仕方もピシヤリ言い当ててもらいたいのですが、こちらは今イチです。

現状、新型コロナの予防はどこまでいっても基本的な予防対策の徹底しかありません。適切なマスクの着用、密を避ける、十分な換気、手洗いと手指消毒などです。それに何より有効なのは免疫力を常に高める生活を送る事。睡眠と栄養をよくとり、温泉に浸かる。できるだけストレスを溜めない。なかなか難しい事も多いですが、これらを心がけています。

過去のように外出を一切しなければ感染リスクはありません。しかし心が健康でなく



別府市長
長野 恭紘

なります。心身の健康のバランスが調和してこそ「健康」なのです。これからも感染予防を徹底した上で、可能な限り通常通りの祭り、イベントをはじめ行事を行なっていく予定です。

これより先は、国も方針の舵を切ったように、感染を防ぐ事も大事ですが命を守る事に専念する対策、そして医療崩壊を起こさない事が重要です。これは行政は勿論、一人一人の責任で実行するしかありません。新型コロナとの戦いはもうそんなに長くは続かないでしょう。結束して備え、戦っていきましょう。

(8月10日執筆)



フォトべっぷ



夏の風物詩—7月30日、31日の2日間、3年ぶりにべっぷ火の海まつりを開催し、多くの来場者でにぎわいました。夜市では様々な屋台が立ち並び、子どもも大人も楽しみました。最終日は5千発の花火が夜空を彩りました。



学生の力で魅力発信—別府大学と松山短期大学の学生が、お互いの街に若者を誘致するプロモーション動画の制作報告会をオンラインで行いました。完成した動画は市役所1階正面玄関前のバンブーシアターで9月から放映します。



市民の気持ち—8月9日、別府市自治会連合会からウクライナ緊急支援寄附金が贈呈されました。別府には現在21人の避難民の方々がいます。寄附金を有効に活用し、別府で落ち着いた生活ができるよう避難民の方々を支援します。



国際的に活躍するアーティスト—塩田春展『巡る記憶』が8月5日～10月16日の日程で市内中心市街地で開催されています。生と死、存在、記憶など人間の根源的な問いをテーマにした作品をぜひ会場でご覧ください。